

## 第2章

# 公共ホール運営のアカウンタビリティ

## ——自主事業の役割とその評価

石井 明

### 公共ホールに対する地域住民の声

昨今、公共事業の是非を巡る議論が多くの自治体で持ち上がり、その都度新聞紙面等を賑わしているが、このようななか、2002年6月26日の朝日新聞朝刊長野版12面に、現在松本市が携わっている公共事業のひとつに対して、以下の地域住民の意見が掲載された。

地方のホール、利用の実態は（声）

主婦 笠松博美（長野県松本市60歳）

松本市では今、新市民会館という名の豪華なオペラハウスが建設中です。

市内では毎年、小沢征爾氏を中心に音楽祭が開かれ「高度な舞台芸術に対応するため」と市は言います。しかし、145億円も費やし、1,800席の大ホールを持つなど、市民会館とはかけ離れた超大型のハコモノ事業です。このような施設を、どれだけ市民が生活に取り込んで利用できるのでしょうか。市内にはすでに県の文化会館もあります。

人口20万の地方都市に、周辺の豊かな自然と不釣り合いな軍艦のような建物。税金の使い道に深慮の余地あるこの時期です。借金の返済は子供の